

今年4月26日より29日までの日程でARF主催 アジアカップI（シンガポール）に審判として参加させていただきました。大会に関する審判業務に関わることなどを報告いたします。

現地へは25日早朝に空港へ着きました、少し早くインドのHEBLEKAR氏が到着しており現地OCの方とともに私の到着を待っていました。

宿泊ホテルに着き、部屋へ行くと相部屋の審判（タイのSittichok氏）がすでに到着済みで休んでいました。25日3時から審判団ミーティングです、2時に会場行きのバスで会場へ向かいました。

3時からミーティングを軽く済ませ、審判各部署を回りました。当パンダン貯水池での業務は2回目ですが、前は1000mコースだったため、会場池の全容があまりわからなかったのですが、今回は池をフルに使う2000mコースでスタート地点付近の様子もよくわかりました。

計時システムはIMAS社で、スタッフは2名来ていました。IMAS社のシステムは慣れているのですが、不調をきたすこともあるのもよく知っています。よって旗発艇もあるかもしれないと考えておきました。

なお、会場の各部署周りを先導してくれたのは同じITOメンバーのPongsaran氏（タイ）です。彼とはよく知っており、シンガポールでの大会では水路などの業務も大会前から担ってくれています。

今回の審判団

President of the Jury

Bing LIANG CHN 1503

Jury Members

Krishnanad HEBLEKAR IND 1390

Hideki TRUKADA JPN 1628

Abdul Halim NASARUDDIN MAS 1699

Suzanna SAID SGP 1710

Arif IKRAM SGP 1733

Faizal AHMAD SGP 1761

Rupesh SHARMA SGP 1762

Pongsaran PANTANGTHAI THA 1712

Sijnee SONTAYANANOM THA 1776

Sittichok THAMTHAVCRNVANICH THA 1777

審判長の Bing LIANG 氏は期間中全て欠席でした。代わりに Singapore の Suzanna 氏が1日目から3日目まで審判長(且つ初日 AM 判定長、PM 判定員、3日目選手計量兼務)を務めました。また、最終日の部署配置表の審判長欄は「×」と記され不在でした、この日 Suzanna 氏は判定員。

また、急遽呼ばれたのでしょうか、2日目からマレーシアの Malik 氏が加わりました。よって初日 10 名、2日目以降は 11 名体制での業務です。

審判会議での主な注意点は、救助艇を呼ぶときは「○○○m、レスキューレスキューレスキュー」と呼べ、無線を使う際は「Start to Finish」のあと「Do you copy?」と確認をすること、白旗の上げ方と主審艇のつける位置に気をつけるように「クリティカルポジションにつけること」などが伝えられた。

私が担当した部署

初日 (26日) AM Control Commission (OUT) 9 レース

PM Starter 8 レース

2日目(27日) Weighing Athletes (AMのみ)3 レース (内軽量級は1 レース)

3日目(28日) Umpire II(全I~IV) (AMのみ)8 レース

最終日(29日) Umpire IV(全I~IV) (AMのみ)7 レース

なお、今大会艇計量は実施しませんでした。

参加国・参加クラブチーム

Singapore、Vietnam、Thailand、Hong Kong China、Macau、Indonesia、Malaysia、College Central Rowing Club(SGP)、Easter Rowing Club(SGP)、Malaysia-Putrajaya、Malaysia-UTHM(Universiti Tun Hussein Onn Malaysia)、Malaysia-UTM (Universiti Teknologi Malaysia)

以上13の国とクラブチームの参加です。今回マカオが国際大会に参加するのを初めて経験しました。女子シングルと男子軽量級ダブルスカルにエントリーしました。

業務報告

大会初日 (26日)

午前はコントロールミッション(出廷棧橋監視)です。

クルーの名前、ユニフォーム、ヒールロープ、バウナンバーなどを確認します。NTOがないので1人での業務です、バウナンバーをクルーに渡すのはNTOです。

女子のダブルスカルで、先にあったシングルスカルから乗り換えてダブル出場するというベトナムのクルーがありました。10:40 スタートで蹴り出したのが10時23分です。

午後は発艇です。3時からです。この日は午前の途中からスタートシステムが故障してお

り旗発艇で行いました。故障は信号ランプが点灯しない、そして「ブー」のブザー音が出ないというものです。しかし、発艇のボタンを押すとフィニッシュ計時システム（ストップウォッチ）がスタートする仕組みは生きており、「ゴー」の合図（計時のスタート）を送る必要があるため、旗を振り下ろした直後に装置の「GO」ボタンを押しました。

しかし午後の3レース目には「GO」ボタンを押したら「ブー」と鳴りました。全艇正常にスタートした後だったので止めませんでした。

Pongsaran氏がバッテリーを交換して、その後は正常に（信号点灯とブザー音）システムで光発艇によるスタートができました。ピーピーピーという警報音がバッテリー不足を知らせる合図だったようです。

2日目（27日）

この日は3レース（敗者復活戦）です。私の担当は選手計量です、シングルスカルの女子と男子1レースずつ計2レースと軽量級男子ダブルスカル1レースです。

軽量開始時刻は8時半（レースが10時半発艇）です。8時39分に最初のクルーが来て9時7分に最終クルー（全5クルー）が来て全クルー平均70.0kg（1人72.5kg）をクリアしました。その後、コントロールコミッション（監視）を手伝いました。

3日目（28日）

男女オープンのシングルスカル、ダブルスカル、ペアと軽量級男子フォア、軽量級女子クウォドルプル決勝が行われました。

私の担当は、Umpire 2（4まであります）です。2レースにつきました。Board of Juryメンバーにも入りました。

最終日（4日目 29日）

男女軽量級のシングルスカル、ダブルスカルとオープンの女子フォア、男子クウォドルプル、それぞれ決勝、それに最終レースは軽量級エイトです。全7レースがありました。

私の担当はUmpire 4です。1レース担当予定でしたが、この日最初のレースについてのUmpire 1の主審艇がレース後故障したため、この日の最終レースも担当することになり、計2レースを担当しました。



パンダン貯水池の一番北側（奥）スタート付近です、初めて見ました。カヌーに乗ってボールをラケットで奪い合いシュートするような競技をやっていました。



競技前日(25日)ITOメンバーが施設、線審小屋へ向かうところです。



同じく25日PM、ベトナムクルーが練習中です。競技前日ですがこの時間に練習しているのはベトナムだけでした。



ミーティングルームに懐かしい
2005年FISA世界選手権の
ステッカーが貼ってありまし
た。



ボートホルダーの皆さん。



マカオのブレードカラーです。



参加クルーはすべてレンタル艇を使用していました。
シングルとペア、ダブルは2010年ユースオリンピック時の艇、フォア、クワッドルプルなどは2015年のSEA GAMES（東南アジア大会）時の艇です。
大きな国際大会も近年開催しているシンガポールです。



FISA 規則では、オールのアウトボードへの広告などの記載、シールは禁止ですが、今大会は不問です。



発艇信号など発艇設備の不調の原因となったバッテリーです。すぐ横に予備があったんですが、替えるということがすぐ思いつきませんでした。



2日目に担当となった選手計量に使う量りです。20kg分の錘を置いて計機の確認です。



アジアの大会ではよく使われる、判定（フィニッシュを知らせる）のブザーの音を出すものです。



表彰式の様子です。

競技2日目の夜に参加選手の歓迎会が繁華街のホテルで行われました。ここで参加国に記念品が贈られました。



今回参加の ITO と ARF 医科学委員会の日浦さんです。

今大会の出場国数は7か国、出場クラブ数は4チーム、参加総選手数は110名、監督役員は40名の規模で行われました。大会パンフレット（TECHNICAL HANDBOOKというタイトルの手作りのものです。）にはシンガポール協会会長ニコラス氏が、今大会は数字の上ではやや少なく小さな大会になるが、経験豊富なクルーの中に新しく挑戦するクルーもいる、我々はアジアの中で確実に競技に参加するクルーを増やす努力をしていく、と語っています。参加クルーのレベルは様々です。アジアでのローイング発展に貢献できる大会として、各国のクラブチームなどの参加が増えることを願います。

最後に今回派遣していただきました日本ボート協会の方々へ感謝申し上げます。今回経験しましたことを日本国内での大会運営などに行かせるよう皆様方と協力していきたいと思っております。ありがとうございました。